

平成31年4月25日

都内私立中学高等学校
校長
養護教諭
生徒指導担当教職員 殿
教育相談担当教職員
関係教職員

一般財団法人東京私立中学高等学校協会
会長 近藤 彰郎
東京私学教育研究所所長 須藤 勉
学校安全・健康教育研究会委員長 河合 孝允
(共催：公益財団法人東京都私学財団)

学校安全・健康教育研究会（学校保健）「講演会」のご案内

「自分を傷つけずにはいられない！」 ～ 自傷行為の理解と援助 ～

惜春の候 先生方におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

今回は、講師に国立精神・神経医療研究センターの松本俊彦先生をお迎えし、「自分を傷つけずにはいられない!～自傷行為の理解と援助～」を演題にご講演いただく運びとなりました。

松本先生は、リストカットなどの自傷行為をはじめとした思春期のこころの問題について教職員の想像を超えたリアルトピックをお持ちであり、今回の講演ではご著書やネットコラムの内容はもとより、そこでは記載しきれない内容や、加えて学校現場に則した具体的対応についてもお話しいたきます。校務ご多用の折とは存じますが、奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

1. 日時 令和元年7月3日（水）18：00～20：00（受付17：30～）
2. 会場 アルカディア市ヶ谷（私学会館）（千代田区九段北4-2-25）※裏面案内図をご参照ください。
3. 演題 「自分を傷つけずにはいられない！ ～自傷行為の理解と援助～」
4. 講師 松本 俊彦 先生

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 部長／薬物依存症センター センター長

【プロフィール】

1993年佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院での初期臨床研修修了後、国立横浜病院精神科シニアレジデント、神奈川県立精神医療センター医師、横浜市立大学医学部附属病院精神科助手、医局長を経て、2004年に国立精神・神経センター（現、国立精神・神経医療研究センター）精神保健研究所 司法精神医学研究部専門医療・社会復帰研究室長に就任。以後、同研究所 自殺予防総合対策センター自殺実態分析室長、同 副センター長などを歴任し、2015年より同研究所 薬物依存研究部 部長、2017年より国立精神・神経医療研究センター病院 薬物依存症治療センター センター長にそれぞれ就任し、現在に至る。このほか、日本アルコール・アディクション医学会理事、日本精神科救急学会理事を務める。

著書に、「薬物依存症」（筑摩書房、2018）、「薬物依存臨床の焦点」（金剛出版、2016）、「よくわかるSMARPP——あなたにもできる薬物依存者支援」（金剛出版、2016）、「自分を傷つけずにはいられない」（講談社、2015）、「もしも「死にたい」と言われたら——自殺リスクの評価と対応」（中外医学社、2015）など多数。



5. 定員 約70名 (申し込み順 ⇒ 定員になり次第締め切ります)
6. 参加費 無料 (本研修会は、当協会会員各校の拠出金と(公財)東京都私学財団からの補助金で運営しております)
7. 運営委員 国立音楽大学附属中学校・高等学校 菊地 千珠
8. 申込方法 6月27日(木)までに下記宛 Web もしくは FAXにてお申込みください。

URL [http:// k.tokyoshigaku.com](http://k.tokyoshigaku.com)

東京私学教育研究所

検索

東京私学教育研究所 学校安全・健康教育研究会 担当：松田・山本

TEL 03-3263-0544

FAX 03-3263-0560

《案内図》



■交通のご案内



地下鉄 有楽町線・南北線
市ヶ谷駅 (1またはA1) 出口



地下鉄 新宿線
市ヶ谷駅 (A4またはA1) 出口



JR中央線(各駅停車) 市ヶ谷駅

上記改札・出口から徒歩約2分

切り取らずにそのままFAXしてください。送り状は不要です。

学校安全・健康教育研究会(学校保健)「講演会」参加申込書〔7月3日(水)実施〕

| 学 校 名 | ふりがな 氏 名 | 職名・教科 ※養護教諭、 ○○科教諭等 |
|-------|-------------|---------------------------|
| | | |

上記の通り申し込みます。
東京私学教育研究所 御中

年 月 日

校 長 _____ 印

※FAX受理、受付完了等の連絡は省略いたします。(本申込書をお送りいただいた時点で受付完了です)
申込確認が必要な方は、下記にご記入ください。後日、申込書受理書をFAXでお送りします。

・希望する

理由等

FAX番号: